

- 1 開催日時 平成31年2月20日(水) 午後2時00分～午後3時00分
- 2 開催場所 長野市役所第一庁舎6階 会議室162
- 3 出席者 出席者5人、欠席委員1人、事務局職員5人、傍聴1人
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 自己紹介
 - 4 エコ通勤推進部会の設置について 資料1、2、3
 - 5 協議事項
 - (1)「エコ通勤」の普及・促進について 資料4、5
 - (2)その他
 - 6 その他
 - 7 閉会

議事概要

【4 エコ通勤推進部会の設置について】

事務局から資料1、2、3により説明があった。

○質疑等なし →本件は、承認された。

【5 協議事項】

(1)「エコ通勤」の普及・促進について

事務局から資料4、5により説明があった。

[意見等]

A委員

資料4の7ページのバスライドの候補地の目処はついているのか。

⇒事務局

候補地との協議はこれからである。丹波島橋の渋滞を念頭に、そこに至る路線沿線が候補地である。

B委員

資料4の14ページの各団体で意見交換を行うためには、具体的なものがあつた方がよい。また、エコ通勤の転換に取り組んでもらえそうな企業のリサーチはされているか。

⇒事務局

資料2の14ページに意見集約の項目2点を記載してある。意見集約は、課題等の現状認識を集める狙いがある。例えば長野商工会議所には交通部会があると聞いているが、そのような場を活用し、各団体で意見交換を行っていただきたい。また、大きな企業には市からアプローチしていきたい。

対象となる企業は、従業員数がある程度いて、通勤手当が支給され、近くにバス停や駅がある等である。このことは一年で完結する話ではないので、今年、来年と少しずつ取り組みを広げていければよい。

C委員

100人以上の企業にヒアリングをしていきたいが、意見集約する2つの内容に関して、集約したものがあればいただきたい。

⇒事務局

特に持ち合わせていない。しなの鉄道で取り組んだものを参考にしたが、通勤手当の支給や通勤状況を把握しているか等、意見集約の取り掛かりになる項目を細分化して各委員に提供させていただきたい。

D委員

渋滞を避けるため、始業1時間前に会社に出社することは、労働基準監督署からの指導があり許されていない。また応援月間の実施時期は寒い時期になるので心配はある。

今回の内容を団体内で話していきたいが、エコ通勤への転換はなかなか難しいと予想される。

⇒事務局

通勤時間のピークをずらす「ピークシフト」は効果が高い。市役所内も同様で、特に支所等の出先機関は難しいと思われる。通勤方法を把握しているので、車から他の手段へ転換できないか確認していきたい。

市の取組みを一つの事例として企業へ話していく中で、我々もヒントを得ていきたい。

B委員

業種によってはフレックスタイムを取り入れている所もある。企業に聞く場合、上の役職の人に聞く場合と、職員個人に聞く場合と、2つに分けたらどうか。また、応援月間ということで、モチベーションをどのように与えていくかが大切である。

⇒事務局

地方都市では車への依存が高い。200m先のコンビニへ車を利用する事例もあるようだ。幼少期の車依存は、成人後に傲慢になるなどの事例を紹介しながら、自分のこととして考えてもらえるようアプローチを考えて市民へ周知したい。

D委員

公共交通の発達した東京では転換しやすいが、長野では便利さから我慢を強いることになるので上手なやり方を考える必要がある。一年二年で済む話ではなく、街の雰囲気が出てくればよい。

⇒事務局

住民自治組織でも考えている人がいるのでアプローチしたい。ライフスタイルを公共交通に切り替えた人の成功体験を例示しながら、できることはやっていきたい。

C委員

車通勤者は渋滞することが分かっているが通勤している。企業で車通勤しないように強制するか、またはポイント等のインセンティブを与える方法が可能かどうか。

⇒事務局

個人には、ICカードKURURU（くるる）利用でポイントの付与は可能である。企業、市との接点の中で、有利に働く仕組みなどが考えられるので研究したい。

D委員

バスロケーションシステムが4月に運用開始することで、便利さを感じてもらい、よい方向に行ければよい。

⇒事務局

意見交換の内容や集約方法など、個々に相談させていただきたい。

○以上の質疑のあと、実施内容について異議なく、本件は、承認された。

(2)その他

・委員から、地方都市のまちづくりに関する講演会の案内があった。

【6 その他】

特になし

※第2回部会は、平成31年5月頃開催を予定